

きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル

VOL.

21

2022 OCTOBER

奈良らしい
景観を目指して



学校で自然の大切さを教える「環境出前講座」



作業前の注意事項を確認するメンバー



チェーンソーを使ったナラ枯れの木の間伐作業



理事長
NPO法人 森づくり奈良クラブ
奥 恵一郎さん



副理事長
奥村 伸一さん

NPO法人 森づくり奈良クラブ

(大和郡山市)

森を守り、育てて、理解する。未来へ向けた森づくり活動

誰もが安心して自然体験ができるよう、「矢田山遊びの森」(大和郡山市)の整備活動や森林保全に取り組む「森づくり奈良クラブ」。森林ボランティア活動を通じて、森の素晴らしさや、自然との向き合い方を多くの人に伝え、「森づくりの輪」を広げています。

安全に楽しく過ごせる森づくりを

豊かな自然と、のどかな里山の風景が残る「奈良県立矢田自然公園」。公園内には、自然体験ができる施設「矢田山遊びの森」(以下、遊びの森)があり、ハイキングやマウンテンバイクを楽しむため、遠方からも多くの人が訪れています。この遊びの森の整備や保全活動に取り組んでいるのが「森づくり奈良クラブ」の皆さんです。

強い日差しが照りつける夏のある日、遊びの森には10名ほどのメンバーが集まっています。この日の活動は、森を覆う木々の間伐作業。「皆さん、暑さ対策をして無理のないように!」と、代表の奥さんは呼びかけます。メンバーはチェーンソーや鉋などの道具を携えて作業現場へ向かいます。

森林の遊歩道は雑草が茂り、木の枝葉が道を塞いで歩きづらい状態。メンバーは、慣れた手つきで丁寧に草を刈り、「暑いなあ!」と談笑しながらも手を止めることはありません。「森を訪れる誰もが安全に、楽しく過ごしてほしい」という思いが伝わってきます。

森林を守り育てる木々の間伐

次は、木の間伐作業です。この日、

障木を伐採。伐採した木々は薪にして公園内にある交流館のストーブに、または敷地内で育成しているシイタケの原木にと、どんな資源も無駄にしないのが活動の流儀です。

イベントや出前講座で森林ファンを増やそう

会が発足したきっかけは、奈良県が矢田山国有林を買収した平成8年。森林ボランティア活動の入門の場として位置づけられた遊びの森に有志が集まり、同会の前身である「グリーンボランティアならクラブ」が設立。平成22年にNPO法人として現名称に改め、森林保全への取り組みを強化していきました。発足時から参加している副理事長の奥村さんは「活動当初、森は荒廃していました。皆の努力で随分きれいになったんですよ」と嬉しそう。

令和4年、長年にわたる活動が実を結び、第33回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞しました。

同会の活動は、下草刈りなどの林内整備(定例活動/第二・四土曜)と、間伐や枝打ちなどの特殊な作業(自主活動/第一日曜と第三水曜)とに分類しています。さらに、近年では、活動



現在の会員数は26名。その多くは、山が好き、自然が好きな人たちです。中には、マウンテンバイクを楽しみに公園を訪れた際、偶然、活動を見かけて入会した方もいるのだそう。「森に遊びに来た人たちが『歩きやすくなった』『いつもご苦労様』と言葉をかけてくれる瞬間が本当に嬉しい。疲れも吹き飛びますよ」と奥さん。森を利用する人も、一緒に活動してくれる人も含めて、森林ファンが増えていくことを願うメンバーの皆さん。その森づくりの輪は、多くの方々に広がり始めています。



美しい花株の横にある盗難を防ぐための立札



里山でサツマイモ畑を耕すメンバー



奈良市「大宮通り」に面する油阪交差点付近での景観づくり

緑友会 (奈良市)



副会長
白川喜一さん



会長
長谷川勝利さん



元会長
羽田 忠さん

心安らぐ景観づくりを。町、人、社会を元気にしたい

道行く人が心安らぐよう、季節の草花で町を彩る「緑友会」の皆さん。「何かお役に立つならば…」を合言葉に、町中で、里山で、美しい景観をつくる活動に取り組んでいます。地域との交流を深め、メンバーの剪定技術の向上にも尽力。歴史ある奈良にふさわしい、彩りあふれる景観づくりをめざしています。

交差点を花でいっぱい！ 総動員で花植え作業

「今日も元気に咲いているなあ」「花株も根付いているわ」。ある初夏の日、緑友会の皆さんが集まっているのは、奈良市内のメインストリート「大宮通り」沿いにある油阪交差点。北、南、西側3カ所に設置された花壇には、同会が植栽した日日草や百日草が咲き誇り、メンバーは口々に花の成育を喜んでいきます。厳しい日照りが続くため、この日はたっぷり水をやり、雑草の刈り取りを実施。細やかな手入れのおかげで、花壇にはいつも色鮮やかな花が咲き、道行く人の心にも、そっと彩りを添えています。

この花壇の植え替えは、主に年2回。自転車や歩行者が頻繁に行き交う交通量の多い場所のため、植え替え時は通行人の妨げにならないよう、会のメンバーのほか、地域の方々も一緒に総動員での作業です。

「花株を積んだりヤカーで横断歩道を何度も往復するのは大変な力仕事なんです」と話すのは会長の長谷川さん。「でも、花株を配置する人、花株を植える人と、皆さんが自発的に作業してくれるので大助かりです」とにこやかな笑顔。大勢の協力により、2千個余りの花株が1、2時間ほどで植え付け完了です。

植栽に従事。これらの功績が認められ、令和4年には第33回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞しました。剪定は、樹木の品種、環境、季節などに応じて方法が異なるため、常に技術を高めておく必要があります。そこで同会では、剪定技術研修会や刃物砥ぎ研修会を定期的に関催し、専門家から直接指導を受けています。副会長の白川さんは「メンバーの多くが勉強熱心ですし、誰もが剪定職人としての自覚をもっています」と高いプロ意識です。

里山づくり活動は 景観形成の一環

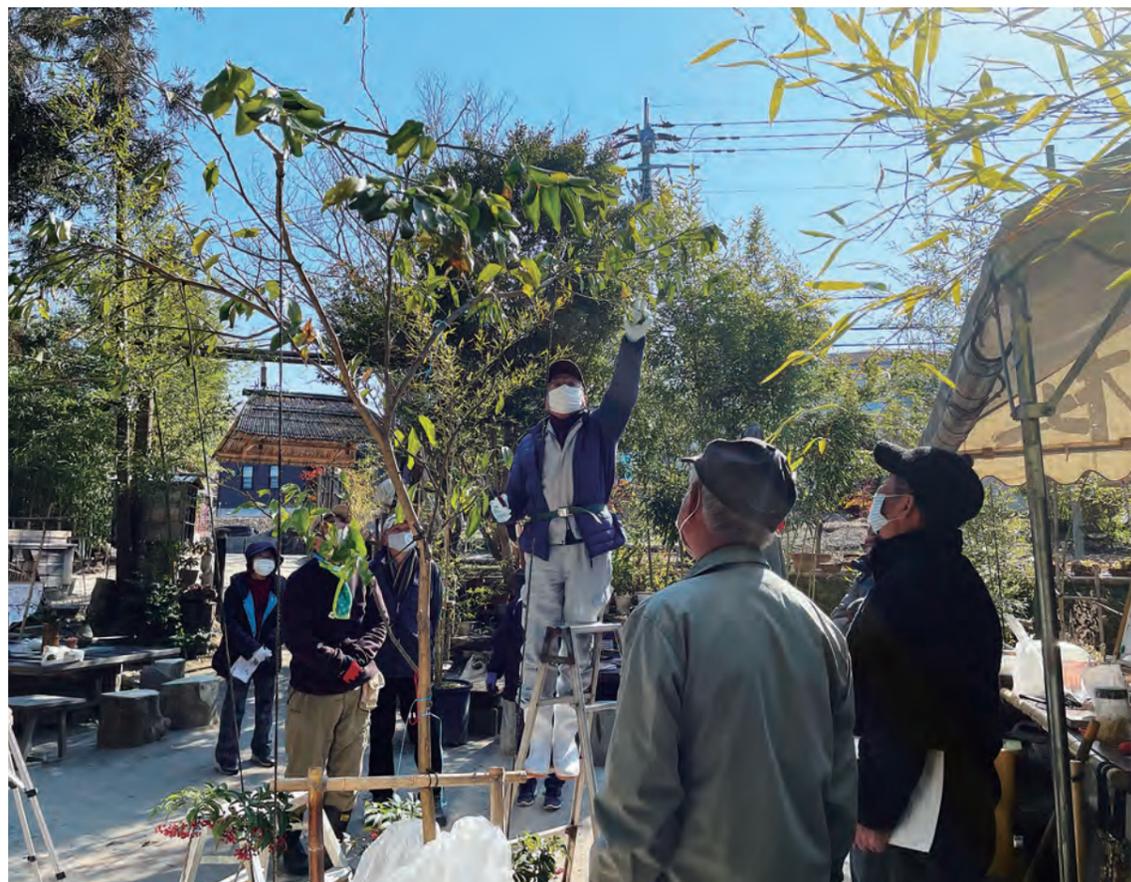
現在、同会が景観形成活動の一環として取り組んでいるのが「里山づくり活動」です。これは奈良の歴史的景観を復元するために始めた活動で、場所

は奈良市と天理市の2拠点。草刈り、植樹、果樹の剪定などの活動のほか、地元の方々との交流活動にも取り組んでいます。そのひとつが、地域の子どもたちに自然や農業に関心を持ってもらうと始めたサツマイモづくりです。初夏には芋苗を植え付け、秋は芋掘りと、子どもたちと一緒に活動し、

自然の営みを教えています。長谷川さんは「里山を整備し、土地を活性化していくことも景観形成につながり、自然保護にもなります。これからも、地域交流は継続しなければなりません」と、里山活動の重要性を伝えています。こうした幅広い活動を続けてきた緑友会。女性会員の一人は、「会の活動が日々の活力です」と集まりを楽しみにしています。とはいえ、現在の課題は、メンバーの高齢化。元会長の羽田さんは「ボランティア活動とは、自分たちができることを、できるときに取り組むことが大事。若い方々に関心をもってもらえるよう我々も頑張りますよ」と意気込みます。

人のため、町のために活動を続けていると、自分たちの人生も豊かになる。そう口々に話すメンバーの言葉には、社会の役に立つことへの誇りが込められています。花々を植えながら、町の景観とともにメンバー自身の志をもまた、鮮やかに彩っています。





明神山自然の森公園の頂上で皇帝ダリアを剪定する棚田さん

「アドバイザーのご紹介」

園芸の技術や知識を、
人のため、町のために役立てたい。

ただ かず じ
アドバイザー 棚田 一治 さん

昭和45年4月奈良県庁入庁。奈良県農業試験場（現・農業研究開発センター）の研究員や農業改良普及員などとして長年、野菜の研究や普及・教育に取り組む。その後、元・奈良県フラワーセンター所長などを歴任し、現在は王寺町の植栽アドバイザーとして活動するほか、奈良県の「なら四季彩の庭づくりアドバイザー」として講演や勉強会に従事。座学と実践を織り交ぜた実践的な指導に、ユーモアを散りばめた講座は「初心者にも分かりやすい」と定評がある。キャベツと大根の合体植物「キャベコン」（観賞用）の開発者。

「先生のご専門と現在の活動を教えてください。」

野菜、果樹、花（花木）と園芸が専門です。中でも、野菜は、品種改良から技術開発・普及・教育まで20年以上携わってきました。現在は、植栽の講師や相談員として活動しており、これまでの知識と経験を役立てています。活動拠点の王寺町では、町の景観保全に従事し、一年の花が一目で分かる「花カレンダー」の作成のほか、「明神山自然の森公園」の花木の植え付けも担当しています。春は梅や沈丁花、秋は皇帝ダリアなど、頂上を訪れた方々に、澄み渡る奈良の眺望とともに、豊かな自然美も楽しんでいただいています。

「アドバイザーの活動について教えてください。」

地域のボランティア団体へ、技術指導や勉強会を実施しています。相談内容は「公園の木を剪定したいが、剪定する枝の見分け方を教えてほしい」といった花木の剪定に関することが多いです。ほかにも、花の育て方、花木の管理などもアドバイスしています。

「指導の際、先生ご自身が心がけていることはありますか？」

参加者が知識と技術の両方を習得できるように努めています。私の勉強会では、

「制度概要」

「河川沿いに花を植えているが、うまく育たない」「公園に植える花のアドバイザーがほしい」といった景観づくりの相談に対し、県では専門的な知識や経験を持つアドバイザーを派遣しています。アドバイザーの技術指導により、植物の育成や管理方法、景観デザインや造園のほか、メンバースキルアップを目指したいとお考えの方はご利用ください。

※1団体につき、3回・計6時間まで利用可能です（年度毎）。
※アドバイザーへの謝礼・旅費を県が負担します。

「おすすめの利用例」

アドバイザーを派遣する時期に合わせて目的を決めておく利用方法がおすすめです。

例) 1回目は「花の植栽」、2回目は「花の管理」、3回目は「剪定」など

「利用可能な団体(申請者)」

自治会、学校、事業者、地域グループ等、地方公共団体

「利用条件」

次の4項目を満たす必要があります。

- 1 県民、県内への通勤・通学者を対象に、県内で開催
- 2 参加者が原則として複数名
- 3 政治、宗教または営利を目的としない
- 4 社会貢献活動の一環として行うもの（事業者のみ）

「注意事項」

- 1 派遣するアドバイザーを指定することはできません。
- 2 アドバイザーは、必ずしも課題等の解決をお約束するものではありません。
- 3 アドバイザーへの謝礼・旅費以外の諸費用については申請者の負担となります。

「問合せ先」

申請方法や詳細については左記にお問合せください。



奈良県環境政策課
電話 0742・27・8663
FAX 0742・22・1668

なら四季彩の庭

検索



棚田さんの主な作業道具



庭の管理講習会の様子(香芝市)



みんなで楽しむ！「なら四季彩の庭」づくり

「なら四季彩の庭」づくりに参加しよう！

ご自宅や、勤務先など誰もが
見ることができる場所を
花や緑で彩りましょう。

プランター等で使用い
ただけのオリジナルステッ
カー・フラワーラベルを配布
しております♪ ご希望の方
は『e古都なら』の申込フォ
ームからお申し込みください。



ステッカー



フラワーラベル

『e古都なら』
申込みフォーム
QRコード



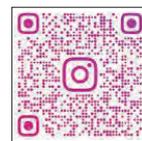
「なら四季彩の庭」Instagram

「なら四季彩の庭」公式Instagramでは、
県内各地の四季の彩りや、地元活動団体による
植栽による取組などを発信しています。

ぜひ、皆さんが見つけた花と緑による県内の
美しい景観や、皆さん自身が取り組まれた「庭
づくり」を『#なら四季彩の庭』で発信してくだ
さい。共に、訪れる人が感動し、住む人が誇れる
奈良県を目指し、「庭づくり」を楽しみましょう。



アカウント名
nara_shiki_irodori



令和4年度「不法投棄ゼロ作戦」推進キャンペーン

11月7日(月)から13日(日)は、「不法投棄ゼロ作戦」強化週間です。

不法投棄をしない、させない、許さない!!

強化週間中は各市町村にて
集中的な啓発活動及び特別パトロールを行います。



奈良県エコキャラクター
「な～らちゃん」

不法投棄ホットライン
(奈良県景観・環境総合センター)

こちらきゅうきゅう さん ぱ い

0120-999-381